

明堂幽位
全

和装本

ケ 5

44

145

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



大坪本流明堂幽位

春生軒齊藤定易撰
允針烙ヲ爲スト經脉絡脉ヲ察スヘレ經
脉ハ血道也絡脉ハ穴孔也能其幽位ヲ明
ニシテ或馬ノ肥瘦食草ノ曼少ヲ見其寒
熱盛衰ヲ知リ然後其天氣ノ晴靜及月令
盈虛晦朔弦望ス者血支血忌本命風雨濕
陰寒皆此日ヲ禁忌シテ忘ニ針烙ヲ施入

ヘカラス右手ニ針ヲ取左手一穴ヲ按レ
皮ニ針セハ肉ヲ破ルトラセス肉ニ針セ
ハ筋骨ヲ破ラス一毫ヲ隣レハ大山ヲ隣
カ如レ三補一泻大馬ハ先左ニ針シテ後
諸穴ニ施ス驥馬ハ先右ニ針シテ後諸穴
ニ施スヘレ是陰ヨリ陽ニ引陽ヨリ陰ニ
引右ヲ以テ左ヲ治シ左ヲ以テ右ヲ治ス
ル也病ニアラスニハ針ヲ行フナカレ春

首ハ血ヲ取下レ秋冬ニ針ヲ制シテ烙ヲ
用ルト知ルヘン

血支日

春者申
秋者寅
冬者巳

血忌日

春者寅午戌

夏者己酉酉

秋者申子辰

冬者亥卯未

本命日

正月者巳 二月者未 三月者寅
四月者申 五月者卯 六月者酉
七月者辰 八月者戌 九月者己
十月者亥 十一月者午 十二月者子

右之日鍼灸ヲ行醫治スヘカラス

土用間日

春者巳午酉 夏者午未未
夏者未未未 夏者未未未
秋者未未未 秋者未未未
冬者未未未 冬者未未未

夏者卯辰申

春者巳午酉

夏者未未未

秋者未未未

冬者未未未

ヲ浮スレハ血脉ト皮トノ針目違テ出ル
血皮肉ノ間ニ洩入テ忽ニ腫レ、トアリ
速ニ散ニサレハ終ニハ大キニ毛燥レ或
癱痺痺ニ生スル者也能々針烙ヲ行シテ後
既中ヲ煖ニナレ繫キ昼夜ハ料草ヲ餉トナ
ク黄昏ニ至テ食草ヲアクエヘキ者也
放血之時卧テ行サル心得之事
卧ル時繩ニ挂ル者ハ卧シムヘカラス

卧テ繩ニ懸ル者ハ速ニ押起レ欣狀ヲ察スヘシ

卧テ見ルニ惣身ノ内ニ音取アラハ先押起シテ欣狀ヲ察スヘシ
滴汨スル者速ニ押起シ欣狀ヲ察スヘシ
嘶色アツテ平色ナラス息詰ル如クナル者ハ押起ルヲ欣狀ヲ察スヘシ
後定廢ル者ハ押起レテ欣狀ヲ察スヘシ

秋者亥酉未冬者寅卯巳酉午未
八專間日令水火土木火水火
七辰戌午四季凡ニ同前

放血之事

馬肥肉満タル者ハ放血ノ前日宜ク騎乗レ又當日ニ至テ謹テ厩中ニ暫ク休ク息鎮リコ中潤色ニシテ延清キ時惣身ヲ探見ルニ冷タル節ヲ以テ音トス温湯ヲ以

テ百會ヨリ脾眼ニ至ニテ洗ニ惣身ヲ温
補シテ其後馬ヲ卧シメ鶴脉ノ血道ヲ又
温湯ヲ以テ澆シ速ニ放血スヘレ
馬瘦骨ニシテ毛燥シクル者ハ當日騎乗
シテ暫ク休メ息鎮リロ中润色ニシテ延
清キ時温湯ヲ以テ惣身ヲ温補シ則卧テ
鶴脉ノ血道ニ冷水ヲ拭テ速ニ放血スヘ
シ針シテ則刻抑起ストナカレ起シテ血

尾下ニカナキ者ハ則抑起レ取狀ヲ察ス
ヘシ
亡血ノ馬ヲハ速ニ抑起シテ取狀ヲ察ス
ヘシ

右八箇條者能ク心ヲ付ヘキ者也忘ニ
行スル 馬ヲ殺ス者也

六陰六陽之圖

夜眼厥陰絡經

勞堂少陽膽經

眼脉厥陰肝經

鶴脈大陰肺經

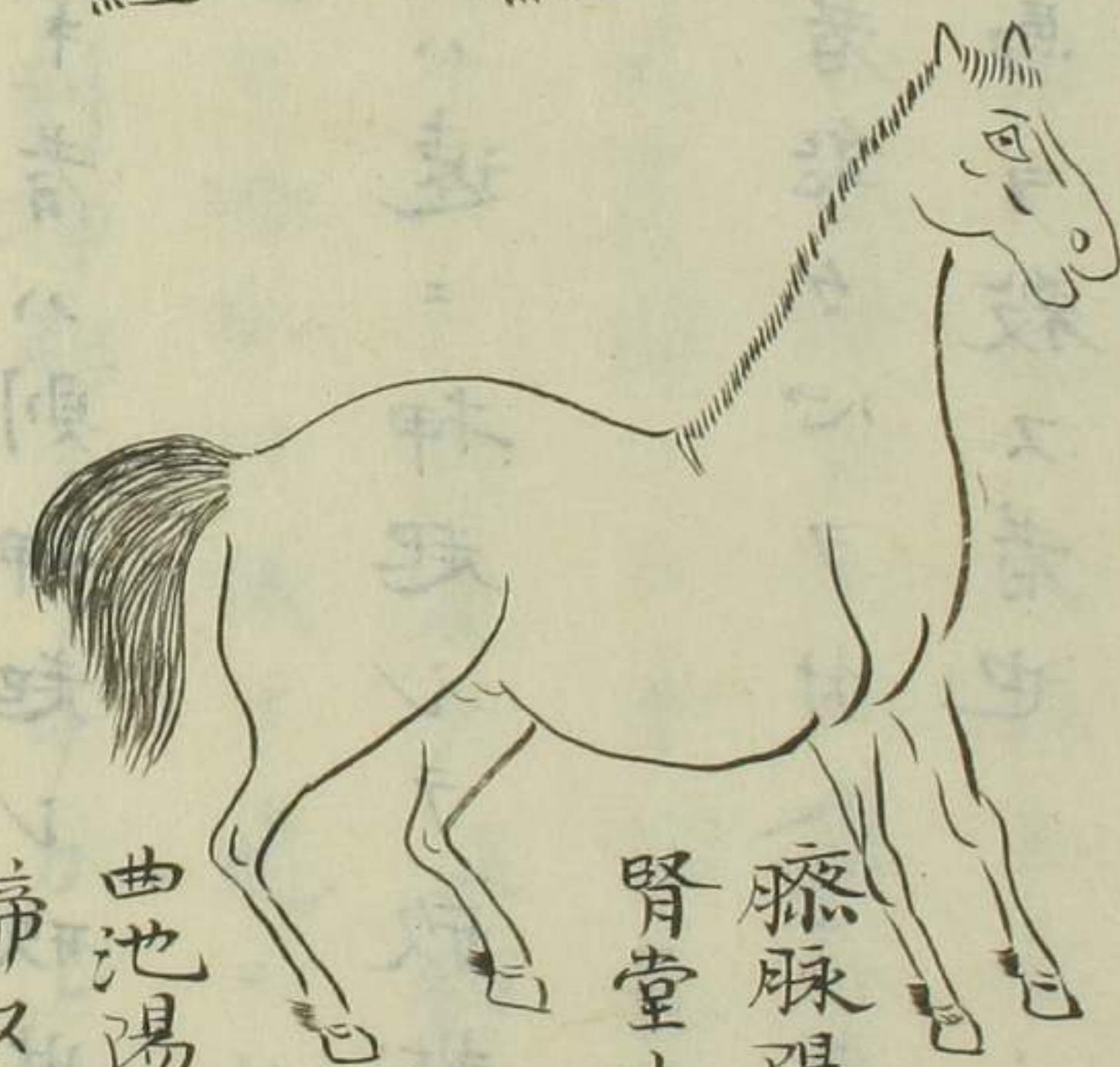
胸堂小陰心經

同筋大陽小腸經

帶脈大陰脾經

尾本大陽膀胱經

曲池陽明膕經
蹄及支陽三焦經



眼脉ハ厥陰肝經也眼尻ヨリ四差ニアリ

此穴ニ針ヲ入ルトニ分血ヲ出ルハ腑火

ヲ浅シ眼腫泪出ル病ヲ治ス

鶴脈ハ大陰肺經也弓象骨ヨリ四差下ニ

アリ此穴ニ針ヲ入ル更三分血ヲ出セハ

五臟ノ積弊及滯毒身辛ノ病ヲ治ス

胸堂ハ小陰心經也此穴ハ胸ノ西方ニア

リ針ヲ入ルト三分血ヲ出セハ心經ノ惡

梵又者胸磇一切ノ痛病ヲ治
帶脉ハ大陰脾經也肘膏ヨリ踵四羌ニア
リ此穴ニ針ヲ入ルトニ分血ヲ出セハ黒
汙ノ病亦者賜黃ノ病ヲ治ス
腎堂ハ小陰腎經也内股陰囊ノ下兩方ニ
アリ此穴ニ針ノ入ルトニ分血ヲ出セハ
腰ノ間ノ滯氣ヲ洩シ又者腎經ノ風邪ヲ
散シ腿痛之病ヲ治ス

尾本ハ大陽膀胱經也尾本ヨリ四羌後毛
ト肉ノ間ニアリ此穴ニ針ヲ入ルト三分
血ヲ出セハ背脊ノ内ニ氣滯テ腰へ流傳
スル病ヲ治ス

同筋ハ大陽小腸經也裏乘重骨ヨリ四指
下ニアリ此穴ニ針ヲ入ルトニ分血ヲ出
セハ乘重骨之腫痛ト心部ニ生スル黃ヲ
治ス

夜眼ハ厥陰胞絡經也此穴ハ禁針也夜眼ヨリ四羌下ニアル穴也

曲池ハ陽明胃經也兩後足鴈翅骨ノ下マカリ平ニシテ凹ナル所ニアリ此穴ニ針ヲ入ルト三分血ヲ出セハ鴈翅骨大キ=腫レ或鳩尾骨腫肩病ヲ治ス
腋脉ハ陽明大腸經也腋フリ四羌下筋ト脊ノ間ニアリ此穴ニ針ヲ入ルト二分血

ヲ出セハ膝骨ヲ抨ニテ腫ルト皮膚勞レテ甓ル病ヲ治ス

纏腕ハ勞堂也少陽膽經也前ハ攢筋骨ノ上後ハ廉節骨ノ上筋ト骨ノ間ニアリ此穴ニ針ヲ入ルト三分血ヲ出セハ骨筋ノ腫痛板筋ノ腫ル病ヲ治ス針レテ其所包テ置ヘレ

蹄スハ小陽三焦經也蹄ト節ノ中ニアリ

前後四穴也針ヲ入ルトニ一分血ヲ出セハ
攢筋廉膚ノ腫痛ト蹄中ニ芽ス腫毒ヲ
治ス針レテ後其腫タル所ニ芒ヲ用テ包
置ヘシ

穴各之圖

門閥穴 血堂穴 鎖口穴 三江穴

衝天穴 肺門穴 脾臟穴 脾夫穴

氣證穴 掩附穴 天臼穴 蹄及穴

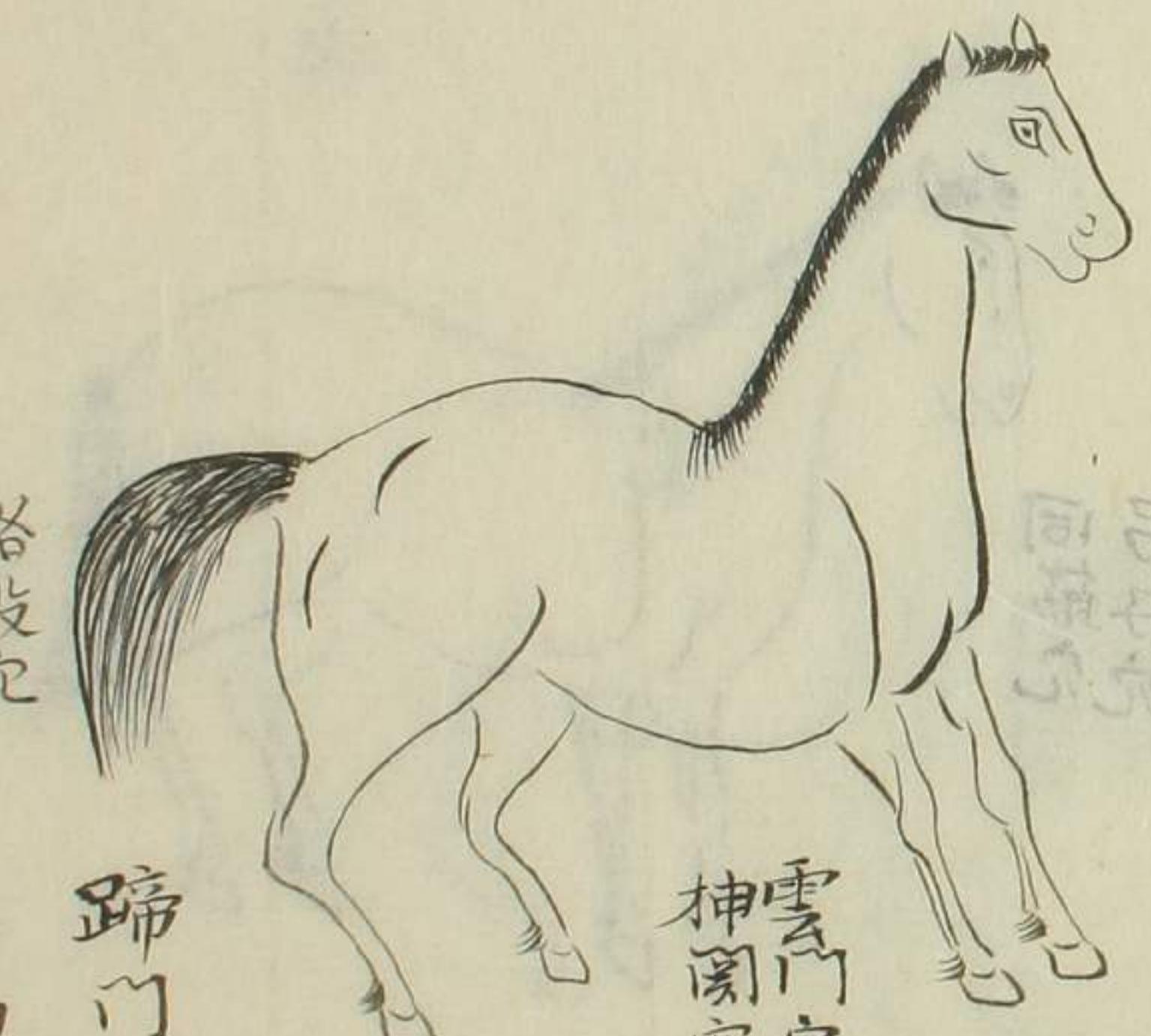
上々委穴 上中委穴 上下委穴 中上委穴 中々委穴 中下委穴 下上委穴 下中委穴 下々委穴

大腸穴 捩草穴 腸群穴 邪氣穴 巴山穴

路股穴 仰尾穴

蹄門穴 廉節穴

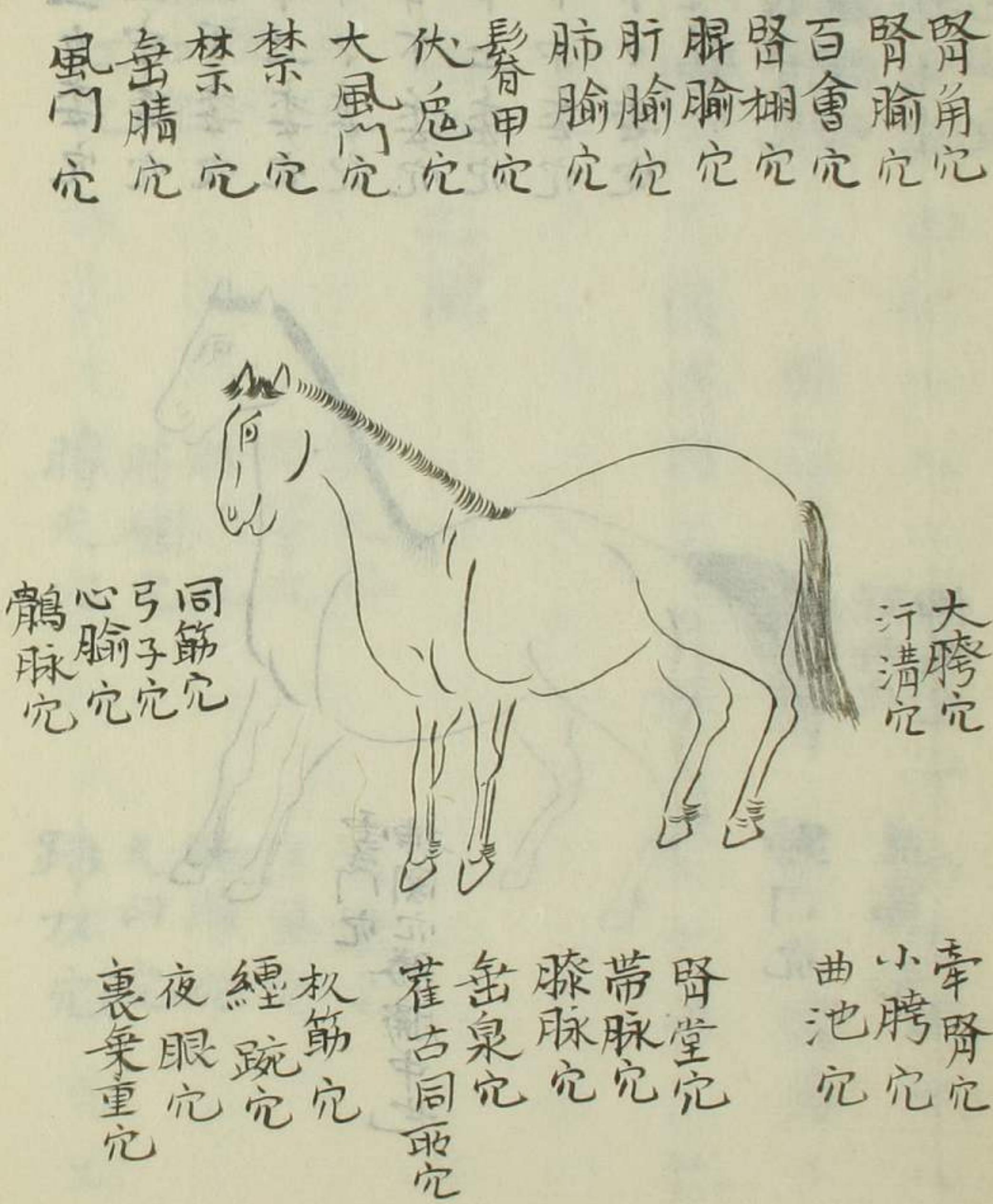
雲門穴 神闕穴 勝臍中也



圖之名膾



圖之名穴



骨名之圖



項上耳ノ間ヨリ髻甲マテ左右トモニ拾
八穴アリ脊直ニ双ヲ低下スル蔓叶サル
寂ヲ治ス 上々委 上中委 上下委
中上委 中々委 中下委 下上委 下
々委 巳上一十八穴ニ針ヲ入ルト一寸
三分也 针シテ其功ナクハ昂烙ス若レ血
氣滞ルトテレハ胸堂鶴脈ノ血ヲ出レ火
針ヲ八竅ノ穴ニ用ヘレ八竅ノ穴者百會

ノセ穴也針ヲ入ルヲ一寸五分也風邪ニ
アタニ或雨濕ノ節擔下ニ禁キテ其濕ヲ
或腋腑ニ冷氣ニ傳流シテ内傷ル也補暖
温脾ノ薬ヲ嘔及温煖スヘレ居是肩髓損
レ破レ内傷レ血脉通セサルニハ能々血
脉ヲ補煖シテ痛ヲ止ル藥ヲ嘔并ニ針烙
スヘレ

膕上ノ八穴左右トモニ一拾六穴アリ針

ヲ入ルヲ一寸血脉滞リ肺氣膕次骨ニテ
大ニ腫痛病ヲ治ス

膕大膕桐槍風肺門肺攀掩時象鑑

弓子ノ穴弓子骨ヨリ四尼克ニアリ此穴
ニ針ヲ入ルヲ一寸三分其針ヲ拔拽テ皮
ヲ動シ温氣ヲ入レハ膕弱滞氣ノ疚ヲ治
スル也

跨上ノ八穴左右ニ一十六穴火針ヲ入

一寸内腎ニ積ル冷氣或腹痛病ヲ治ス
巴山路股大脇小脇汙溝仰凡邪氣牽腎
腰上ノ穴左右凡ニ六穴アリ腎膀胱腎
角^井百會ノ一穴モニ七穴脊骨ヲ去ル
四羌穴毎ニ四羌ヲ相離火針ヲ入ル
一寸五分内腎ノ積冷及一切腰ノ病ヲ治ス
所^肝腧ノ穴左ノ腸豁骨後ヨリ五六ノ間ニ
脊骨ヲ去ル^下一尺五寸ニアリ此穴大針

ヲ入ル^下一寸一切肝病ヲ病ヲ治ス
脾腧ノ穴後ヨリニ三ノ豁骨ノ間ニアリ
肖骨ノ際ニキヲ仰テ當其キヲ返シ俯テ
其取ニ穴アリ又ニ三ノ間ニ指ヲ入脊
骨ノ方へ押テ上レハ落入所アリ此穴火
針ヲ入^下一寸脾胃冷氣ニ破ラレ亦脾寒
ニテ悍^ニ或不食ノ病ヲ治ス
肺腧ノ穴後ヨク八九ノ豁骨ノ間也脊骨

ヨリ一尺五寸去テ其穴宛アリ針ヲ入ル
ノ一寸助気滯リ又ハ肺痛ノ病ヲ治ス
大風門ノ穴兩耳ノ根ヨリ四毫後アリ
此穴火針ヲ入ルノ三分其針目ノ跡ニ油
ノ塗レハ卒中風及破傷風諸々ノ風病ノ

治ス

風門ノ穴額晴鬚ノ下髪ト毛ノ間ニアリ
此穴火針ヲ入ルノ三分所昏腦黃ノ病ヲ

治ス

通用人穴ニ道ハ舌根ノ西方ニアリ此穴
火針ヲ入ルノ二分血ヲ出セハ六脉困寒
テ舌根腫ル病ヲ治ス
玉堂ノ穴口ノ内ノ上歛第三ノ角ニ在此
穴ニ針ヲ入ルノ二分血ヲ出セハ五臟ノ
積熱東口黃ノ病ヲ治ス針ロス塩ヲ塗リ
テ可也

用用ノ穴ニ道ロノ内兩頬ノ上腫取ニアリ此穴ニ細火烙ヲ入ルトニ分其跡へ塗ラ塗リ涼藥嚙ハ上焦ニ滯ル弊或水草ムセル病ヲ治ス

唯門ノ穴煩ヨリ四尾下ニアリ此穴ニ長針入皮肉ノ門ノ眼下マテ切剝ハ積熱及身ヲ嗤或汎ヲ嗤又者穎黃ニテ地ニ倒ル、病ヲ治ス

雲門ノ穴大馬ハ胸ノ前三寸小馬ハニ寸半ニアリ此穴ニ針ヲ入ルト一寸膀胱ノ積冷又者宿水ノ病ノ治ス
蹄門ノ亢蹄ノ西方ニアリ此穴ニ烙針ノ角ノ以テ烙レニ膿ヲ出レ油ヲ塗ハ蹄門并彈子及腫痛足ヲ引病ヲ冷天臼ノ穴蹄門ノ上凹ナル所ニアリ此穴ニ針ヲ入ルト三分久患蹄ノ病ヲ治ス

伏鬼ノ穴耳ヲリニ羌後ニアリ此穴ニ針

ヲ入ルヲ三分項硬病ヲ治ス

骨眼ノ穴眼ノ内ニアリ先針ヲ取テ糸ヲ
通レ骨眼ヲ穿テ通レ夫ヲ左手ニ能持テ
引上右手ニカ子ヲ持骨眼ヲ切去リ黒眼
ニサハヲサルヤウニ切ルナリ則骨眼ノ
病ヲ治ス

心肺ノ穴臆骨ノ上ニアリ若レ心疽ノ黃

ヲ患ハ白針ヲ用テ皮ニ拾餘針スルハ黃
水ト血ヲ出レ其取ニ塩一錢ヲ用テ塗ハ
毒氣出テ吉若レ醫療セスンハ心肺ニ通

テ瘡ト成也

板筋ノ穴膝下ニアリ此穴板筋大ニ硬キ
ヲ患ハ烙鍼ヲ持テ烙スヘレ

席筋骨ノ穴席筋骨ノ上骨ト筋トノ間ニ
アリ此穴ニ針ヲ入ルヲ二分血ヲ出セハ

筋大腫痛病ヲ治ス

壯口ノ穴此穴ハ尿通流ノ所也針ヲ禁ス

ルナリ

尾大ノ穴尾尖ニアリ此穴ニ針ヲ入ル
五分血ヲ出セハ黒疔ノ病ヲ治ス
膿癰ノ穴此穴ハ圖說ニ見ヘス膿群ノ
成ヘシ膿上軟ナル所ニアリ此穴ニ針ヲ
入ルト三分入モニ三分膿聚硬ク或腹細キ

病ヲ治ス

血堂ノ穴兩鼻ノ内ニアリ此穴ニ針ヲ入

ルト三分血ヲ出セハ肺熱ニテ鼻腫痛病

ヲ治ス

三江大脈ノ血龜梁ヨリ四冕西方ニアリ

此穴ニ針ヲ入ルト二分血ヲ出セハ熱氣
ヲサマシ或頬骨腫痛或骨勞レテ

奮睛ノ穴眼ヨリ四毫上ニアリ腫痛テ毒
氣散ス煩ハ白針ヲ持テ皮ヲ強ク切指ヘ

レ
鬚甲ノ穴脊骨ノ最高キ所ニアリ一切ノ
腫痛ニ白針ヲ持テ鍼スレハ毒氣ヲ散テ
吉

棕草ノ穴曲池ノ上ニアリ此穴ニ大針ヲ
入ルヲ三分眼ヲ擣騁ヲ拽テ痛ヲ治ス

鎖口ノ穴裂目ノ留リ両方ニアリ鎖口黃
病ヲ患ハ火烙スルヲ深サ三分也
外衆重穴ハ膝上五寸ニアリ此穴ニ大針
ヲ入ルヲ三分腫毒及暖痛或腫痛ノ病ヲ
治ス

金泉ノ穴蹄ノ裏雀舌ニアリ此穴ニ大烙
ヲ入ルヲ三分久蹄ヲ患ル腫毒ノ氣ヲ出
シナ吉

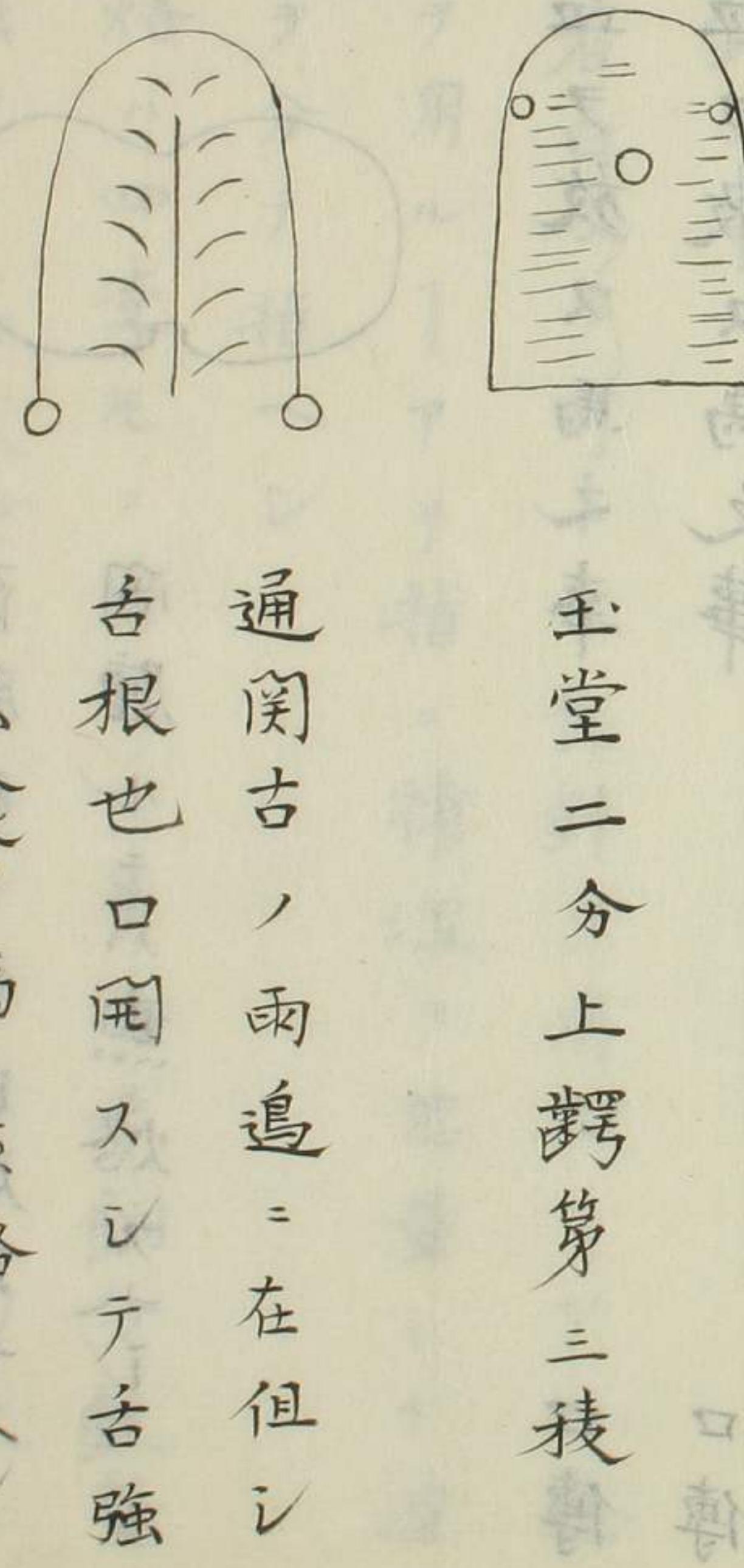
陰胸ノ穴外腎ノ後方真中縫目ノ上ニアリ此穴ニ大焰ヲ入ルト三分油ヲ塗レハ

陰腎大キニ腫ル病ヲ治ス

小腸ノ脇ノ穴附骨ヨリ四毫後ニアリ火針ヲスルト左ノ方ナリ

大腸ノ脇ノ穴後ヨリ第四骨ノサキ右ノ方ヲ火針スルナリ

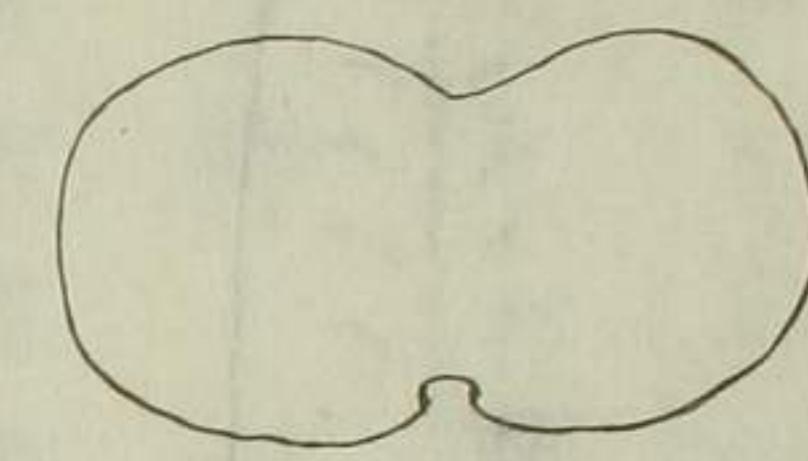
三傳圖說



通關古ノ兩邊ニ在但レ
舌根也口開スレテ舌強
リ不食ノ病ニ點烙スヘシ

陰輪輪ノ後凹成所也

圓腫ルニハ點烙スレモシ



大血ヲ放ス馬之事事二食土器裏三口傳

小血ヲ放ス馬之事

口傳

補血ノ馬之事

口傳

切針之事

剝針之事

針者白刃ヲ可トス長針ヲ用ル一アリ短
針ヲ用ル一アリ指ニ補泻ヲ思量シテ深
淺ヲ分テ指ヘレ

火烙ハ四季凡ニ用ヘシ草灸赤銅灸鉄灸
ノ法アリ其鉄灸ニ三種アリ一一四形ニ
一角形ニニ曲形也能經絡ヲ察レ穴ヲ明

ニレテ火烙ヲ施スヘキ者也

大和國李氏ノ開祖の傳承を述文達矣
然セシムハ

然セシムハ

接ト同ニ一トニ若。南風ノ西風。十風
倭樂白皮。百半之歌。唐樂。十一音
曉林之聲。唐樂。十一音

曉林之聲。

傳

+

當流宗師

日本武尊

迦末流

貞紙親王

鹿鳴流

八幡太郎

義家

六條判官

爲義

湯山入道中原玄性

大坪或部太輔廣秀

村上加賀守永幸

齊藤備前守國忠

大坪流

齊藤安藝守 好玄

齊藤備後守 忠玄

齊藤齊宮頭 辰遠

丹列住僧子慶坊

齊藤永馬助 辰光

齊藤主税

定易

齊藤
主税
日本
當氣
東照

